ネットワーク人《第75回》

今回は上島在住の**小林（こばやし）秀樹（ひでき）さん**に執筆いただきました。（小野）

「夢と希望に向かって」

酒匂川は私のボランティア活動の原点です。民間会社をリタイア後15年、振り返ると様々な仲間と共に会をつくり行動を起こして来ました。足柄平野の中心を流れる酒匂川、母なる川から流域全土はその恩恵を得ています、これからも変わらないと思う。

その酒匂川を慈しむことは自らが関わることが大切だと思い、続けてきました。活動のスタートは「酒匂川を連携軸とする県西地域の交流と活性」（平たくは県西地域が手を結ぼう）でした。その後の「酒匂川ネットワーク会議」に繋がり今日に至っています。

足柄の歴史を見つめなおしてみようとリタイヤ組の素人集団が主となって発足したのが、「足柄の歴史再発見クラブ」でした。メンバーに加わったが初めは興味も面白味も感じない、噴火と泥流と川の土石に流されてきたこの地に、何の歴史が残されているのか疑問がつづく。未知のものに光を当て、調べを進めると新たな発見と喜びがあるというのだが、実感が湧かず。そうだ、現地に出よう。歴史の手掛かりは書物にも多くあるが、現地にはその何十倍かそれ以上のものがある。歴史を創った足跡がそこに残されていることがわかった。

冊子「富士山と酒匂川」はそのような私の気持ちの中で刊行された。10年以上経過した今でも多くの方に愛用されて、毎年、町内外小学校の出前授業に活用されている。ここから学んだことは酒匂川も足柄平野も人々が長年かけて作り上げてきたことで、今まで考えても見ないことだった。たとえば万葉の時代（約1600年以前）、に行き交う人の哀歌が足柄峠に残されている。ここは、西に都があった頃、東西を分けた地と言われ、今でも足柄道として活きている。そこにたたずむと16世紀も前の万葉人になった感覚になり、歴史の尊さ面白さがよみがえる。

中国の黄河は長大で酒匂川の凡そ120倍の長さがあり、広大な黄土高原をあたかも悠然と流れている。その源流域の禹門口は酒匂川治水と深い関わりがあります。

酒匂川治水、急所の第一は足柄平野の入口ともいえる大口（おおくち）周辺にあり、310年前の富士山宝永噴火後、江戸幕府徳川吉宗の命で派遣された治水家・田中丘隅が平野を洪水から守ろうと大口ほか周辺の土手（堤防）を大改修して酒匂川の流れを戻しました。ここは先に述べた禹門口にも似る場所で、完成時の石碑に4000年前の皇帝で治水神〝禹文命の教え〟を残しています。これが文命碑です。

私のなかのまちづくりの一端を述べましたが、いつまでも気持ちと行動を絶やさずに夢と希望に向かいます、まだまだやりたいことやることは一杯あります。

あなたのお店のPR
社協がちょっぴりお手伝い!?
社協だより掲載 広告主募集
詳しくは社協事務局（82-5222）へお問い合わせください。

あしがらグリーンファーム
観葉植物生産販売　ホームページ制作
チラシ・ポスター制作
パソコン指導
リース承ります
ご相談下さい
http://www.ag-farm.com
開成町吉田島23　☎0465-82-6150